

JA全農えひめ情報

あけび

1

2019・January

新春特別号



CONTENTS

- ① 会長年頭あいさつ
- ③ 新春企画／県本部長インタビュー 夢と希望の持てる愛媛農業の未来を拓く！
- ⑧ THE・ねっとわーく
- ⑩ NOW NOW COOKING 〈今月の素材〉七草

会長年頭あいさつ

新年を迎えて



全国農業協同組合連合会愛媛県本部
運営委員会 会長

菅野 幸雄

新年を迎えるにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。組合員ならびに読者の皆様におかれましては、清々しい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

また、平素は、全農愛媛県本部並びにグループ会社の事業各般にわたり格別のご指導・ご協力をたまわり、厚くお礼申し上げます。

昨年は、全国各地で大規模な自然災害が頻発しました。特に、西日本豪雨では県内各地において、尊い人命が失われ、農地や農業用施設、農産物

に甚大な被害が発生しました。改めて被害に遭われた皆様に哀悼の意を表しますとともに、心よりお見舞いを申し上げます。全農愛媛県本部では、県内JA・連合会と連携し、被災地の復旧・復興を全力で支援してまいります。

農業をとりまく情勢は、TPP11の発効、日EU・EPAの発効見込み、日米TAG交渉等により、貿易の自由化が一層すすむことが危惧され、国内農業への大きな影響が懸念されます。

また、高齢化・担い手不足による生産基盤の縮小が一層深刻となっており、消費者の低価格志向や安価な輸入農畜産物の増加などによる販売価格の低迷基調など、農家経営は依然厳しい状況が続いております。

全農では、29年度から『農林水産業・地域の活力創造プラン』に係る全農の対応』として自己改革に着手し、JAグループ自己改革の牽引役となるよう率先して取り組んでおります。引き続き、農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化に向け、全力をあげてこの取り組みを加速していきます。

愛媛県本部におきましても、中期3か年計画で取り組んでおりますJAグループ自己改革の「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の実現に向けた「農業者所得増大チャレンジ事業」を深化・拡充し、愛媛農業の生産基盤強化と農家所得の向上、担い手サポートセンターによる地域農業を支える担い手の確保・育成への支援などを、JAと一体となって積極的に取り組みます。各事業におきましては、グループ会社と連携し、会員JA・組合員の皆様から求められている組織の機能を最大限発揮して、JAグループとして農業者が安心して持続的に農業経営が続けられるよう尽力してまいります。

最後になりましたが、本年も皆様の一層のご指導・ご支援をお願い申し上げますとともに、ご健勝・ご多幸を祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。



新春企画

小越 慎介 県本部長インタビュー

夢と希望の持てる愛媛農業の未来を拓く!



J A全農えひめ 県本部長

こ 小 越 慎 介

編集部 新年あけましておめでとうございます。

小越 おめでとうございます。
編集部 本日は、「農業者所得増大チャレンジ事業」の実践状況や、JA全農えひめの2019年の取り組み方向などをJA全農えひめ小越慎介県本部長にお聞きしたいと思えます。よろしくお聞きたいです。

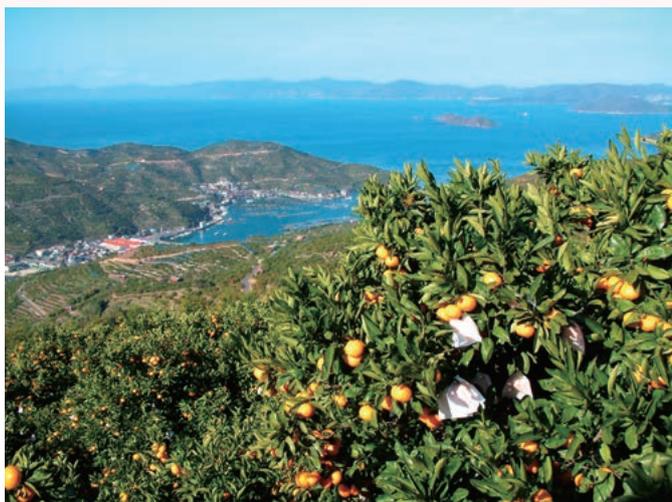
まず、昨年一年間を振り返りますと、全国各地で大規模な自然災害が頻発し、愛媛県内でも西日本豪雨による甚大な被害がありました。

小越 自然災害の恐ろしさを改めて痛感しました。被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

7月の西日本豪雨により、大洲市にあります県内唯一の食肉処理施設でJA全農え

ひめグループ会社のJAえひめアイパックス(株)は、施設内への浸水等により工場の稼働を停止。被災して3か月以上経った昨年10月15日に本格稼働となりました。県内の畜産農家の皆さまに大きな負担をかけ、代替えと場を依頼した県外の施設には大変お世話になりました。

また、愛媛の主力産物である柑橘も、園地や農道などのインフラ全般にわたって大きな被害がありました。JAグループ愛媛は、愛媛県内のJAグループ役員を中心に「JAグループ愛媛支援隊」を被災地に派遣しました。第一次派遣では、農業用施



設などの復旧活動を中心に、8月中旬からは第二次派遣として、全国のJAグループ役員も参加し、被災地の農作業支援を行っています。今こそ私たち協力の力で、被災地の一日も早い復旧・復興をめざし、継続的な支援を行っていききたいと思えます。また、JAや他の会員組織と連携をとりながら、生産者の営農意欲がそがれないように、産地の情報を消費者に伝え、生産者の手取り向上につなげていきたいと思えます。

編集部 一般の第37回JA愛媛県大会では、「創造的自己改革の実践〜組合員とともに愛媛の農業と地域の未来を拓く〜」が決議されました。

小越 JA全農えひめでは、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る取り組みとして、生産者所得向上につながる生産資材価格形成の見直し、農産物の流通・加工の業界構造の確立を目指していきます。また、マーケティング(※)を軸とした販売力強化、生産から消費までのバリューチェーン(※)の構築および高度化など新たな事業モデルの構築のほか、JAグループ内の機能分担の見直しによるJAグループ全体で事業運営コストを抑制します。さらに、「県域担い手サポートセンター」による担い手支援、畜産事業における食肉センターを核とした生産から販売までの最適化などをすすめていきます。



「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の着実な実践に向けて

編集部 JA全農えひめでは、平成28年からの3年間、JAグループ自己改革の「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の実現に向けて「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開しています。事業別に取り組みの内容をお聞かせください。

小越 「農業者所得増大チャレンジ事業」は、「販売改革×生産性の向上」コスト削減＝農業者の所得増大」という基本方式の

もと、生産・販売・購買の各部門が三位一体となりパッケージ体制をつくる取り組みをすすめてきました。こうした取り組みの中、この3年間で、部署を超えた連携が取れるようになってきたと思います。

まず、食糧についてですが、多収性や良食味が確認されている業務用多収性品種「あきだわら」の普及・拡大に取り組んでおり、現在9JAで45・9 haです。さらに、JAやTACと連携し、大口農家をリストアップ。TACとの同行訪問により集荷推進も行いました。

また、愛媛県が開発した新しい品種、「ひめの凜」が今年の秋、誕生します。夏の高温に強く、コンバクトで倒れにくいことが特徴です。この愛媛の新しいお米も、行政と連携しながら、普及拡大をしていきたいと思えます。

32年連続全国生産量一位（30年産）のはだか麦については、実需者のニーズに合わせた安定供給をめざし、収量性向上・栽培技術の確立に向け、「麦収量アップ研修」を実施するなど取り組みをすすめています。

一方、果実については、反収および正品率の向上に向け、県内各地で土壌診断を行ってきました。この定点土壌診断・分析に基づく土壌改善対策や適正施肥により、土壌の改善傾向が見られました。今後も、温州みかんを中心に他品種においても実施数を増やし、品質向上に向けた取り組みを



点から面に広げていきます。

野菜については、レタス+枝豆の共同荷造りモデルの実証をすすめているほか、加工玉ねぎを中心に加工業務用野菜の生産面積の拡大を目指します。

また、今年の2月末、四国中央市に「愛媛さといも広域選果場」が完成予定です。同選果場は、さといも「伊予美人」の主力産地でもある東予地区の各JA枠を超えた広域選果場です。品質の均一化をはかりながら、契約的取引の拡大や流通コストの削減など「愛媛チーム」として生産者の所得向上を目指します。また、従来の生果や業

務用出荷だけにとどまらず、ペースト状のさといもを商品化するなど、新商品の開発にも力を入れていきます。

次期チャレンジ事業はより生産・販売・購買が三位一体となったパッケージ体制を構築すべく、各部門でプロジェクトを立ち上げ、JA・生産者と一緒に生産基盤を拡大していきます。

担い手確保に向けた体制の整備

編集部 農業の担い手不足は、愛媛県でも大きな課題ですが、担い手対策についてはいかがでしょうか。

小越 昨年4月から、JA全農えひめ営農食糧部営農支援課（担い手サポートセンター）へ愛媛県およびJA愛媛中央会から職員を受け入れ、担い手対策の一元的な推進体制を構築し、各JAに対するワンストップ窓口となり、多彩な支援の情報確保ができるようになりました。併せて、JA全農えひめから愛媛県の農地・担い手対策室への職員派遣も行いました。

10月には、首都圏において愛媛県単独では初開催となる「就農相談会」を東京都内で開催しました。今後も県外での就農フェアを積極的に開催していく考えです。さらには、農業者の労働力確保の対応策として、

農業と福祉をつなげる「農福連携」の取り組みも行いました。今後も、JAや行政と連携しながら一人でも多くの担い手を増やしていきたいと思えます。

編集部 生産資材についての取り組みについてはいかがでしょうか？

小越 肥料については、昨年度は、米麦用化成肥料の銘柄集約と共同購入を実現させました。今年度は、果樹配合肥料も県内JAが取り扱う65銘柄のうち48銘柄を7銘柄に集約し、県内6JAでH31春肥から流通



に取り組みます。農薬は、ジェネリック農薬の開発に向けて取り組みをすすめるほか、農薬の中四国広域物流センターが昨年12月から稼働を開始。今後、県内物流の最適化を検討し、JA・組合員への効率的な配送体制を構築、物流コスト低減を目指します。

農機については、機能を絞った低コストモデルの共同購入や、さとも掘取り分離機の普及にも努めていきます。

段ボールは、規格集約、適正包装化（材質変更・ショートフラップ化）などによるコスト削減に向けて取り組んでいます。

編集部 輸出事業についてはいかがですか？

小越 柑橘については、行政と連携しながら台湾へ河内晩かん、台湾・香港へ温州みかんの出荷を行っています。また、日園連を窓口にカナダ向け紅まどんなの出荷もスタートしています。

畜産関係では、JAえひめアイパックス（株）と連携し、愛媛県産豚肉の東南アジアへの輸出についても、検討をすすめています。

ブランド力の強化と消費者への直接訴求

編集部 畜産事業についてはいかがですか？

小越 JA西日本くみあい飼料（株）やJAえひめアイパックス（株）などと連携して全農グループの総合力を生かし、生産から販売に至るまで生産性の向上、経営安定対策、生産基盤維持の仕組みづくりをしています。今後は、食肉センターを中心に、生産・集荷・と畜・販売の最適化に向けた検討をすすめていきます。

また、昨年は「ふれ愛・媛ポーク」がブランド誕生から20周年ということでキャンペーンを実施し、新CMも放送。今年1月からは、松山市内で伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ポーク」のラッピングバスの運行



▲「ふれ愛・媛ポーク」20周年を記念して放送されたCM

をはじめするなど、より消費者への認知度向上、消費拡大に努めています。

J A全農えひめ畜産部直営の「全農のお肉屋さん」(東温市「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場内」)は、伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ポーク」、県のブランド「あかね和牛」の販売をすすめながら、アンテナショップとして消費者に直接訴求していきます。

編集部 生活事業についてはいかがですか？

小越 東温市にあります直売所とコンビニの一体型店舗「ファミリーマート・全農ふ



▲東温市北野田にある「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」

れっしゅ広場」は今年の4月でオープン4年目を迎えます。各種イベントを定期的の実施し、この3年間で徐々に地域にも根付いてきました。今後も、地産地消の推進と地域消費者の利便性の向上を図っていきます。また、ネットシステムを活用した宅配事業や直販事業の拡大など、より地域のくらし支援に努めていきます。

効果的かつ効率的に 広報機能を発揮

編集部 広報活動についてもお聞きしてきましたと思います。まず、本会の広報活動の中心ともいえる広報誌についてですが、昭和34年に創刊した本誌は、昨年12月号で1000号を迎えました。

小越 長きにわたって組合員・消費者に情報を発信し続けてきた「あぐり〜ど」が1000号を迎えたという事で嬉しく思います。これからも、分かりやすく充実した内容で読者の皆さまにお届けしていきたいと思えます。

現在は、広報誌以外にもホームページやテレビCM、昨年10月からはFM愛媛でラジオ番組をスタートさせるなど様々な媒体を使って情報発信しています。

さらに、昨年10月には、県内報道機関の報道責任者らと意見交換会を開催しまし

た。これからも、県内報道機関と連携をとりながら、地元農産物のPR、全農の認知度向上や理解促進を目的に、対外広報に力を入れていきます。

今年、幅広い世代へ「地産地消」を発信していくために、体験型のイベントなどを強化していきたいと思っています。特に、未来を担う子どもたちへの「食育」は大切で、行政や教育機関などと連携しながら、食育イベントを実施していきます。

編集部 では最後に、今年の抱負とメッセージをお願いたします。

小越 周りの環境変化が激しさを増していることが予想される時です。だからこそ、「考える前に『動く』」ぐらいの行動力を大事に、スピード感を持って実践し、成果をあげていきたいと思っています。組合員により近い存在になるよう、これまでの取り組みをさらに進化させて、グループ会社と一体となり、全力を挙げてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

(※) マーケットイン：消費者や実需者の需要に応じた生産・供給を行うこと。

(※) パリ्यूチェーン：生産から加工、流通、販売に至るまで、各事業が有機的につながり、それぞれの工程で付加価値を生み出していくプロセスのこと。(出典：農林水産省平成26年度食糧・農業・農村白書)



THE

ねごとわーく

平成30年産「伊予柑」の 出荷販売対策と消費宣伝計画

果実課

平成30年産伊予柑の生産予想量（12月10日時点・県内JA集計）は、23、360トン（前年比93%）、販売計画は、17、683トン（前年比95%）と前年をやや下回る予想となっております。果実内容は糖、酸共に平年並みの状況で、果実肥大は平年並みからやや小玉傾向となっております。

果実の販売状況は、温州みかんの出荷の集中や昨年からの販売の流れにより、荷動きが鈍くなっています。さらに、静岡の生産予想量（10月1日時点）は前年比145%とかなり多いことから、年末から年明けにかけて競合する温州みかんの数量が多くなる見込みであり、果実の販売は今後厳しい展開が予想されます。

このため、平成30年産伊予柑の出荷販売にあたっては、高品質果実の出荷を基本とし、出荷時の品質基準

の遵守や需給動向に対応した計画的な出荷、的確な産地情報の発信に努めるとともに、果実需給調整対策事業および消費宣伝事業を有効活用していきます。

〈主な出荷対策〉

品質基準に基づいた食味・内容重視の出荷を遂行するため、階級別貯蔵管理を推進し、階級別の適期出荷に積極的に取り組みます。

販売開始は基本的に年明けからとし、1月販売は品質基準の遵守を徹底します。ただし、年内に市場からの出荷要請がある場合は、品質基準を遵守の上、注文数量以内の対応とします。

低品位果実は加工仕向け等市場隔離を行います。特に3月はス上がり
に注意した出荷を行います。

〈主な販売対策〉

月別の出荷計画量は品質調査結果や伊予柑の需要動向及び販売環境を

勘案し、2月販売を中心に精度の高い出荷計画を設定します。

消費者は酸を嫌う傾向が強いため、伊予柑全体のイメージを損わないよう品質基準を遵守した計画的な出荷を行い、特に1月は食味を重視した販売に取り組みます。

3L級以上の大玉果は販売後半の品質低下の発生や末端での取り扱いの縮小及び販売アイテムの変更等も懸念されるため、大玉果は早期に出荷し、遅くとも2月20日までに販売終了となるよう徹底を図ります。また、M級は3月1日以降の販売とします。

1月9日～31日における毎週水曜日販売分を停止します。
レギュラー品は3月上旬頃には終了し、3月販売は「弥生紅」の出荷促進に取り組みます。

選果場ごとの出荷状況を的確に把握し、市場ごとの残荷量・未仕切り状況を加味して出荷量を調整します。
日量出荷量の平準化の徹底を図り、休み明けの出荷量は平常時の20%増以内に抑えます。

〈緊急時の対策〉

1月のJA全農えひめ全市場日別平均販売価格が一定価格を下回る恐れや市場在庫が増加する恐れがある場合は、緊急対策会議を開催し、全

JA公平な出荷調整や出荷停止等の措置を実施します。

〈伊予柑果実需給調整対策事業〉

秋冬果実の販売状況や年明けの品目情勢を勘案すると、伊予柑の販売も苦戦が予想されるため、下位等級品の市場隔離と、需給動向に対応した計画出荷の遂行が強く求められます。

このため、各JAの独自対策とあわせ県下全体の対策として、低品位果実の市場隔離を行う加工誘導に絞り込んだ需給調整対策（対象11月18日以降市場出荷用1、500トン）を全JAが連携協調整して取り組みます。

〈消費宣伝計画〉

SP（セールスプロモーション）レディ等による店頭試食宣伝活動（のべ90日）を中心に効果的な宣伝活動を通じて、魅力の発信と消費拡大、県内生産者への見える化に取り組みます。また、愛媛いよかん大使によるキャンペーン（1月28日～2月6日）、「愛媛いよかん11予感」をキャッチコピーに今年で34回目となる湯島天神合格祈願いよかん配布（1月12日）等を実施し、愛媛いよかんのさらなるイメージアップを図ります。



無洗米キャンペーン実施中

（株）ひめライスは、12月17日から2月28日まで、無洗米「あらうまい！」を対象商品として、ライスクッカーミニや伊予牛「絹の味」焼き肉セットなどが抽選で合計550名様に当たる「無洗米あらうまい！」555キャンペーンを実施しています。

キャンペーンでは、「あらうまい！」が「水とタピオカだけで米ぬかをとっているから安心安全」という点のほか、リーフレット等を通じて、無洗米の「洗わずに炊ける便利さ」をアピールすることで、「あらうまいシリーズ」の商品力を高め、

販売量の拡大をめざします。

キャンペーン内容

【対象商品】

ひめライス無洗米「あらうまい！」全商品（もち米含む）

【景品】

- ◆ Aコース（55人）≡ KOIZUMI「ライスクッカーミニ」
- ◆ Bコース（55人）≡ 伊予牛「絹の味」すきやき用
- ◆ Cコース（55名）≡ 「ふれ愛・媛ポーク」しゃぶしゃぶセット
- ◆ Dコース（55名）≡ 「あまおとめ」（約1kg）
- ◆ Wチャンス（330名）≡ 「あらうまい 愛媛県産にこまる」2kg

【応募方法】

ひめライス無洗米「あらうま

い！」商品に付いている「応募シール」または米袋左上に付いている「ひめマーク」を切り取り、1kg以上を1枚1口として、応募はがきまたは郵便はがきに貼付し、希望の賞品コース（A～Dコースのうちの1つを明記）、郵便番号・住所・電話番号・氏名・年齢・購入店、ひめライスに対するご意見・ご感想を記入の上、郵送してください。

※お一人様何口でも応募できます。一度に複数枚応募の場合は、封筒にてご応募頂けます。

【応募締切】平成31年2月28日（木）当日消印有効

【応募先】〒791-1316 3伊予郡松前町大字徳丸字五屋敷771-25

株式会社ひめライス
あらうまい！キャンペーン係

【当選発表】厳正なる抽選の上、賞品の発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

応募方法やキャンペーンに関する詳細は、店頭か（株）ひめライスのホームページでご確認ください。

また、（株）ひめライスは、無洗米キャンペーンに併せて、愛媛産の高温耐性品種「にこまる」の認知度向上に向けて店頭試食販売等によるPR活動を実施し、販路拡大をめざします。



無洗米 あらうまい! 55th ゴーゴー キャンペーン 合計 550名様に当たる!

<p>Aコース 55名</p> <p>ライスクッカーミニ KOIZUMI KSC-1912-W (1.9L)</p>	<p>Bコース 55名</p> <p>伊予牛「絹の味」 すきやき用</p>	<p>Cコース 55名</p> <p>ふれ愛・媛ポーク しゃぶしゃぶセット</p>	<p>Dコース 55名</p> <p>あまおとめ [約250g×4パック]</p>
---	--	--	--

キャンペーン応募期間 平成30年12月17日(月)～平成31年2月28日(木)

Wチャンス 330名様に当たる! 「あらうまい! 愛媛県産にこまる」2kgプレゼント

賢い私は、無洗米派。

3合のお米を約700mlのお水で炊き立て「ダトク!」

無洗米 700g 炊き立て

安心安全

「あらうまい、おいしい!」

今月の素材

七草



胃腸にやさしい和製ハーブで
冬場のビタミン、鉄分補給を

▶ (前) プリから揚げ七草あん、(後・右) 七草からし和え
(左) 七草中華粥



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

七草からし和え

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約91kcal	
七草	2パック
塩	適量
チリメンジャコ	10g
ジャコ天	1枚
人参	1/5本
だし	300cc
④ みりん	大さじ3
薄口醤油	大さじ3
溶き辛子	小さじ1~
カツオ節	適量

〈作り方〉

- ① 七草は食べやすい大きさに切り、塩茹でして冷水にとり、水気を切る。
- ② ジャコ天は細切り、人参は千切りにする。
- ③ 鍋に④を入れて沸かし、②とチリメンジャコを加えて火を通し、冷ます。
- ④ ③に①を入れ、溶き辛子を混ぜる。
- ⑤ 器に盛りつけ、カツオ節のをせる。

七草中華粥

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約259kcal	
七草	1パック
塩	適量
白ご飯	2杯分
サツマイモ	100g
鶏ささみ肉	1本(約50g)
中華スープ	600cc
④ 生姜(すりおろし)	小さじ1
塩	小さじ1/2
ゴマ油	小さじ1/2

〈作り方〉

- ① 七草は細かく刻み、さっと塩茹でし、冷水にとる。
- ② サツマイモは1cm角に、鶏ささみ肉は細切りにする。
- ③ 鍋に白ご飯、中華スープ、②を入れて、約5分煮込む。
- ④ サツマイモがやわらかくなれば、④を加えて味を調え、①とゴマ油を入れる。

プリから揚げ七草あん

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約378kcal	
七草	1パック
塩	適量
プリ	4切れ
④ 酒	大さじ2
濃口醤油	大さじ2
片栗粉	適量
サラダ油	適量
だし	300cc
⑥ みりん	大さじ2
薄口醤油	小さじ1
塩	小さじ1/2
生姜汁	小さじ1
水溶き片栗粉	大さじ2~
クコの実(戻したもの)	20粒

〈作り方〉

- ① 七草は大きめに刻み、塩茹でし、冷水にとる。
- ② プリは半分に切り、④に約15分漬け、片栗粉をまぶす。
- ③ フライパンに多めのサラダ油を入れて弱火で②の両面を焼く。
- ④ 鍋に⑥を入れて沸かし、水溶き片栗粉でとろみをつけ、①と生姜汁を加える。
- ⑤ 器に③を盛り、④をかけ、クコの実を飾る。

POM

八朔に
ほんのり
しょうが

Hassaku & Ginger

期間
限定



爽やかな味わいの「瀬戸内産八朔」と、「高知県産生姜のエキス」を使用。心地よい酸味とほんのりとした生姜の風味ですっきり飲みやすい味わいです。

冬の乾燥対策に!

人間の浸透圧とほぼ等しい
アイソトニック飲料なので
効率的に水分補給ができます。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com



第41回
えひめみかん祭り

味わって愛媛のかんきつ 届けよう愛媛のこころ

41TH EHIME MIKAN FESTIVAL

2019年1月19日・20日

午前10時～午後7時(※20日(日)は午後6時まで) | いよてつ高島屋8階 スカイドーム特設会場

展示&販売会

果実コンクール・愛媛かんきつと加工品販売
県内各地より選び抜かれた多彩な果実と加工品が勢揃い。果実コンクールは予約販売ですのでお早めにお越しください。

**ポンジュース
蛇口**

●午前10時～午後3時まで

みかん餅つき

※先着100名様
みかん祭り恒例、大人気のみかんのお餅!
●19日(土)午後4時～
●20日(日)午後1時30分～

「愛のオレンジロード」紹介

●午前11時～
みかん早むき大会 子供限定
●午前11時10分～
みかんポップコーン
●午前10時～午後5時まで
※お一人様一つ限りです。

**石崎麻巳・正岡省吾が
みかん祭りを盛り上げます!**



みかん数あて 2日連続

みかんの数を当て、豪華賞品をGET!!

みかんクイズ 子供限定

●正午～午後3時～
みきゃんと
ダークみきゃんも来るよ!!
写真もOK!



**ご利用券
ポップコーン**

※H31年1月19日・20日有効※材料に限りがありますのでお時間によってはご利用できない場合があります。17:00まで

主催：愛媛県 JA全農えひめ 愛媛県果樹同志会 愛媛新聞社

後援／愛媛県議会、一般社団法人愛媛県農業会議、愛媛県農業協同組合中央会、JA愛媛県信濃、愛媛県農業共済組合、株式会社日本政策金融公庫松山支店、農林中央金庫松山営業所、全国共済農業協同組合連合会愛媛県本部、えひめ愛フード推進機構、協賛／いよてつ高島屋、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、FM愛媛、朝日新聞松山総局、毎日新聞松山支局、読売新聞社、産経新聞社、日本農業新聞、時事通信社松山支局、共同通信社松山支局、日刊工業新聞社松山支局(順不同)



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用しております。

この冊子は再生紙を使用しています。



「えひめの食」Instagram



あぐり〜どはWEBでも読めます

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

